

J-DESC 第 11 回マントル掘削 WG 会合 議事メモ

【日時】 令和 4 年 6 月 3 日（金） 15:00-16:30 オンライン Zoom 会合

【参加者】（敬称略）：秋澤、阿部、石橋、稲垣、海野（WG 長）、片山、草野、島、針金、道林、山下、山田、末廣（アドバイザー）、監物（J-DESC 事務局）

【欠席者】（敬称略）：黒田、富士原、森下

1. 第 10 回会合の議事メモ案の承認及び第 8, 9 回会合の議事録の HP 掲載時期について
 - 第 10 回会合の議事メモ（案）が承認された。本 WG 会合後に HP に公開する。
 - 第 8, 9 回会合の議事録の HP の公開は、白鳳丸提案の正式通知後とする。
2. 951-Full（ハワイ沖海洋地殻掘削）の SEP コメントへの対応について
 - 海野 WG 長より、これまでの経緯と SEP からのコメント、サイトサーベ航海の立案状況について説明があった。
 - ハワイ沖の地下構造探査の実施に向け、当該航海実施に最低限必要なオペレーションと予算について明確にしておく。
 - ドイツ・ゾネ号のプロポーザル提案の可能性について、海野 WG 長からドイツ側にコンタクトする。
 - SEP コメントに対する Proponent Response Letter（PRL）について、951 プロポーネントを交えた検討を開始する。
 - APL の可能性について検討したが、既存プロポーザルが採択に至っていないことや、APL のためだけにハワイ沖に「ちきゅう」が行くケースは想定し難いことから、パイロット孔掘削の実現に注力すべきとした。
3. 次期海洋科学掘削の検討に関する情報共有について
 - 令和 4 年 4 月 12, 14 日に、ECORD-Japan Webinar が開催され、国際コミュニティに向けて ECORD-Japan Program の検討概要が紹介された。5 月 31 日に両者代表会合があり、具体的な枠組み作りや、ECORD-Japan 合同ワークショップの開催等に向けた取組み等が議論された。
 - 米国において RFI の結果に基づく次期 US-led プログラムや JR の継続に関する議論が行われている。米国の海洋科学掘削の存続に係る SODA（Petition）への署名活動は、国際にオープンになっている。署名するかどうかは、個々の研究者の判断である。（本情報は J-DESC HP に掲示されている：http://j-desc.org/us-soda_petition/）
4. 国際ワークショップについて
 - 令和 4 年 3 月 28 日に開催された PMO 会議において、フラッグシップ・イニシアティブに関する国際ワークショップの開催企画・支援についての議論が進み、4 月 7-8 日の IODP Forum で報告された。その後のアップデートはない。

- ECORD-Japan 合同ワークショップの開催が検討されつつある。日本側にもメリットがあるバイラテラルなテーマ検討が必要であり、マントル掘削（海洋地殻深部掘削）もテーマに挙げるべきである。
5. 文部科学省海洋開発分科会海洋科学掘削委員会において、過去2回の次期海洋科学掘削等についての議論がなされた。
- https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu5/016/index.html
- 本委員会は、登録により傍聴が可能である。第3回会合は6月6日（月）14:15～17:15であり、2024年以降を見据えた国際動向と地球惑星科学分野の研究開発動向について議論される予定（前者は非公開）。第4回会合は7月4日（月）に開催予定であり、マントル掘削技術検討委員会の報告等が議論される予定。
6. J-DESC 組織改変に伴う WG メンバーの更新について
- IODP 部会との協働を保つため、新しい IODP 部会の執行委員メンバーの何方かが本 WG にメンバーとして加わって頂くよう調整する。人選については、WG 長と IODP 部会長に一任し、次回 WG 会合より参加して頂く。
7. その他
- 8月8-9日に東北大学「知のフォーラム」シンポジウムが開催予定。
 - 6月14-15日に IMPACT WS が開催予定 (<https://serc.carleton.edu/iodp/2022-impact/index.html>)
 - 次回（第12回）マントル掘削 WG 会合は、7月上旬頃を予定。次回のショートセミナー講師は、JpGU ハードロック部会等で表彰を受けた新進気鋭の若手研究者を中心をお願いする。

■ マントル掘削 WG セミナー11

【日時】 令和4年6月8日（水） 10:30-12:00

【講師】 秋澤 紀克（東京大学大気海洋研究所）

【ファシリテーター】 草野有紀（産業技術総合研究所）

【タイトル】 海洋プレート直下で起こる小スケールマントル対流をカンラン岩から考える

【要旨】 海洋プレートが移動することで引き起こされる現象の一つに、小スケールマントル対流がある。この対流は、いわばプレートテクトニクスが存在する地球を特徴づける現象であり、海嶺から沈み込み帯までの海洋プレートの一生を理解する上で重要である。これまで、小スケールマントル対流の実態は、海洋物理観測結果やモデル計算から推測されてきた。本発表では、天然のマントル物質であるカンラン岩から、小スケールマントル対流の実態に迫る試みを紹介する。カンラン岩は辿ってきた温度や圧力条件の変遷に伴い古い記録は上書きされていってしまうが、組織と化学組成を丁寧に解析して紐解いていくことで見えてきたマントル中での上下対流様式を

用いて議論する。

(参加者：50名)

- 事務局より、事前に J-DESC メールニュース及び Facebook での情報配信を実施した。

以上。

//